

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年12月25日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4671000224
法人名	医療法人 微笑会
事業所名	グループホーム ほほえみ
所在地	鹿児島県指宿市東方314-1 (電話) 0993-22-1030
自己評価作成日	平成30年9月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pccpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成30年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・緑豊かな自然環境に囲まれ、明るく開放的な雰囲気の下、グループホームで暮らす全てのメンバーがひとつの家族となり、和やかに日々の生活を送っています。気候の良い日には散歩や外気浴を楽しみ、その時々には咲く花々や実のなる果物に季節の移り変わりを感じています。

・利用者様と職員が共に楽しむ事を大切に、施設内の行事はもちろん、地域の行事・イベントへも積極的にかかるなど、多くの笑顔を引き出せるよう支援しています。

・利用者様とのコミュニケーションを密に取り、日々変化する利用者様の心身状を把握し、小さな変化にも気が付けるように努めています。協力医療機関の主治医、看護師の毎週の訪問もあり、気になることは相談し、適切なケアを行うことが可能です。緊急時は、24時間対応して頂ける体制が築かれているため、安心した生活を送ることが出来ます。

・職員は施設内外での勉強会・研修などを通し、認知症や健康管理について学び、よりよいケアが行えるよう、日々、自己研鑽に努めています。

・当事業所は2ユニットのグループホームである。自治会に加入し、総会出席や回覧板で情報を共有、年3回の清掃活動や地域避難訓練、チャレンジデイ等積極的に参加している。保育園児の散歩コースとなっており園児の立ち寄りや事業所クリスマス会での交流、地域住民からの野菜や花の差し入れなど日常的に交流が図られ良好な関係が築かれている。

・協力医療機関との医療連携や支援体制が整っており、往診や訪問看護・緊急時の対応など、日常的な健康管理、重度化や終末期も含め本人・家族の安心につながっている。

・外出の機会が多く、日課の散歩や外気浴・買い出しのミニドライブ・地域行事参加や年間計画での園外活動など、利用者の楽しみとなっている。

・管理者と職員間のコミュニケーションも良好で、外出やイベント行事など工夫や協力体制で職員も楽しみながら計画実施している。意見や提案の出しやすい環境で離職者の少ない働きやすい職場となっている。

・管理者は自己評価や研修の充実を図り、資格取得を奨励し、利用者優先の質の高いサービスの提供を目指している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	基本理念のもと、具体的な介護方針を示し、職員全員が同じ姿勢でケアの実践に取り組んでいる。	理念と行動目標を玄関やホール・トイレ等へ掲示し、毎日の朝礼時に唱和して理念に沿ったケアの実践に繋げている。パンフレットやホームだよりにも掲載し地域住民や家族へも周知している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域を盛り上げる活動に積極的に参加している。	自治会に加入し、総会出席や回覧板で情報を共有し年3回の清掃活動や地域避難訓練・チャレンジデイ等、積極的に参加している。ホームは保育園児の散歩コースとなっており園児の立ち寄りや事業所でのクリスマス会の交流、地域住民からの野菜や花の差し入れなど、日常的に交流を図っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	職員は認知症サポーターの講習を受講し、キャラバンメイトとしての活動に参加している。また、地域の中学校の体験学習を受け入れ、認知症の方の対応方法等を実践を通してアドバイスしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では、私達の暮らしの全てを報告しながら、生活の上での葛藤や困り事等について相談している。事故やヒヤリハット事例では、意見や助言をもらい対応策へと繋げるよう努めている。</p>	<p>会議は2ヶ月毎に開催している。入所者の状況やヒヤリハット・行事や活動状況・研修報告・外部評価結果報告等を行い、意見や提案を話し合っている。地域の見守りの情報や身体拘束への質問・避難訓練について、行政からの介護保険の助言もあり、出された意見はサービス向上に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議への参加を求め、事業所の取り組みや現状の報告を十分に行っている。各種の相談をする中で返答の出来ない事柄については、市町村に持ち帰り協議して頂く等の対応をお願いしている。</p>	<p>運営推進会議やグループホーム連絡協議会を通しての連携、出向いたり電話やメールでの相談など連携を図っている。市主催の研修会参加やキャラバンメイト養成講座への協力など良好な関係が築かれている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束廃止に関する体制を整え、指針に基づいたケアの実施と身体的拘束適正化委員会を運営推進会議を利用して開催している。</p>	<p>指針やマニュアルを作成している。身体拘束廃止委員会が中心となり毎月の検討委員会、3ヶ月毎の勉強会で禁止の対象となる具体的な行為の確認と身体拘束ゼロに向けた取り組みを行っている。身体拘束適正化委員会を運営推進会議に合わせて2ヶ月に1回行っている。事例の状況によってその都度会を開いている。玄関の施錠はしていない。見守りと職員の連携で、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待防止法を含む勉強会を定期的実施することで、高齢者介護の専門職としての自覚を再認識している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>権利擁護については、施設内で勉強会の機会を持ち全職員が学んでいる。実際に制度の利用が必要であれば家族への提案も行っている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入所時には運営規定、重要事項の内容について詳しい説明を行っている。改定の際は、文書により説明、疑問があれば個別に詳しい捕捉を行ない納得を頂いている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議での意見交換やご家族の面会時に要望などについて検討する機会を設けている。</p>	<p>利用者からは日常会話の中から思いを把握している。家族からは、面会や運営推進会議・家族会の時に意見や要望を聞いている。日頃から意見が言いやすい環境づくりに配慮している。運動させて欲しいという要望に対してルームランナーの設置につなげるなど運営に反映している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>職員の意見や提案は、いつでも出し合える環境にある。出された意見については、解決策を職員間で話し合い、必要があれば代表者へ相談している。</p>	<p>職員とは日頃からコミュニケーションを図り、意見が言いやすい雰囲気がある。食事やお茶の時間・ミーティング・月1回の合同会議の時に対応している。個人面談は年2回。必要時は随時面談している。必要に応じて代表者へ相談している。散歩時の携帯GPSの利用開始や手作りほほえみ神社賽銭箱の設置・業務内容の変更等、運営に反映させている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>キャリアパス制度を導入し、職員のキャリアアップ支援や個人の目標と自己評価により、条件の整備が行われ、やりがいになっている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の段階に応じた人材育成研修の受講の機会を設け、実際のケアの実践に発揮させている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会へ加入、勉強会への積極的に参加。他事業所における様々な活動を知る機会の確保に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>サービス利用の前に、ご本人の思いや要望が聞き取れるようにコミュニケーションを取りながら情報収集を行っている。また、生活の中でご本人の表情や様子をよく観察しながら不安な様子の改善策を職員間で話し合う機会を常に持っている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居が確定した時点で入居に至った経緯や、今後の生活において不安と感じることをお聞きしながら、支援に繋げている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>協力医療機関の利用を決めつけずに、他の医療機関の受診の支援も多くある。認知症専門医の往診、神経内科の専門医による内服薬の調整などの利用もある。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>家庭的な環境を重視し、利用者個人の好きなこと、できることの把握に努め能力を発揮できる環境作りに取り組んでいる。できることを一緒に喜び合える関係にある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	大切な家族との繋がりを持ちながら、ホームでの生活を継続するための家族の役割を計画に取り入れることや、病院受診時の付き添いをお願いすることで、状態の把握ができるよう支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の大切な習慣(お墓参り、家族の誕生日のお祝い、法事など)や外出(趣味の演芸や季節の花々鑑賞など)に積極的に出掛け、以前交流のあった方々と会う機会を作っている。	入居時のアセスメントや日常会話の中で、馴染みの関係を把握して対応している。面会は友人知人・近所の方の訪問があり、馴染みの店で知人と会うこともある。馴染みの美容師や年賀状・郵便物の支援もしている。馴染みの関係が途切れないように支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	寂しさを感じながらも、共に暮らす仲間がいることの嬉しさも感じながら暮らしている。職員が関わりを持つことで利用者間のコミュニケーションが図られている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所の理由は入院又は看取りであるが、契約終了後も遠方の家族へ現状報告やご本人の様子を定期的にお伝えしたり、看取り後の家族が面会に来ていた頃のように尋ねてきて下さっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入所時のアセスメント、日々の生活の中での会話、定期的なモニタリングで把握に努めている。困難な場合は、言葉や表情をよく観察しながら職員間で情報の共有を図りご本人の心地よさを汲み取れるよう努めている。	入居時のアセスメント、家族からの情報、日常の会話や表情しぐさなどから思いや意向の把握に努め毎月のモニタリング時に情報を共有している。困難な場合は本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、情報収集のツールを可能な限りご家族へ記入して頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態や過ごし方については、記録に残し職員間で共有し、ケアカンファレンスにおいて情報の収集を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族の意向を基に、生活上の課題について職員間で話し合い、介護計画を作成している。ご本人に変化がある場合は、ケアカンファレンスを開催しサービス内容を変更する等、現状に合ったものとなるよう努めている。	本人・家族の意見を聞き、主治医の意見を参考に担当者会議を開催し介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い、見直しは6ヶ月毎に行っている。状況が変化したらその都度見直しして、現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を記載している。職員の気付きやケアの工夫については、連絡ノートに記載し情報を共有している。必要があれば24時間シートを用い状態の把握に努め介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方の家族で対応困難な部分について、他科受診の支援、各種手続きの代行など柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民参加の行事の企画やボランティア、中学生の体験学習の受け入れ、地域主催の文化祭や行事への積極的な参加を取り入れている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・家族の意向や受診状況等を入所時に確認し、希望するかかりつけ医の受診、往診を受けられるよう支援している。	本人や家族の希望するかかりつけ医を受診支援している。受診は職員が同行したり、本人や家族の状況で対応している。歯科は往診があり、耳鼻科・皮膚科は往診や受診に行っている。訪問看護師との医療連携もとれており適切な医療を受けている。協力医による往診や定期受診、管理者が主になり主治医との連携が図られ適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の状態の変化や職員の気付きは、協力医療機関の看護師にいつでも相談できる関係にあり、相談には迅速に医師へ連絡され、指示を仰ぐことができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、早急に看護・介護サマリーを作成持参し、認知症の周辺症状や起こりうる行動障害については直接説明すると共に書面により詳しく伝えている。入院中も出来る限り面会に訪れ不安や困り事の解消の軽減に繋がるよう支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化や終末期のあり方についてご本人、家族の意向についてお聞きしている。現在、看取りに対する体制が整っていないが、実際には家族の意向により、主治医、訪問看護を利用した看取りの経験もある。	指針・マニュアルがあり重度化や終末期のあり方・対応について入居時に本人・家族へ説明し意向を確認している。協力医療機関とは24時間医療連携体制がとれている。看取りの事例もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急講習を定期的に受けることにより、介護職員の対応力を向上させている。また、施設内外研修において、知識の獲得に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の昼夜を想定した避難訓練の実施の他に、自主訓練も実施している。近隣の方々へは、緊急時の役割についてお願いしてある。</p>	<p>マニュアルを基に避難訓練を年2回、消防署立ち合いの下、昼夜想定で実施している。自主訓練を夜間想定で年2回行っている。自動通報装置があり、近隣に見守りの協力体制が整っている。自主的に移動訓練や誘導の順番を訓練している。居室入り口の車椅子利用者の安否表示などを確認している。備蓄は水や非常食を用意している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年に2回、接遇マナーについて自己を振り返る事を習慣としている。	マニュアルを基に年2回接遇マナーについて勉強会を開催し、振り返りを行っている。入居時に名前の呼び方について確認したり、人格を尊重しプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より、ご本人が気持ちを表せるような信頼関係を築くことに努め、コミュニケーションの中でご本人の思いを察し、言葉で確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活リズムはほぼ確立しているが、食事の時間や入浴日等でご本人希望があれば、その方のペースや要望に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	ご本人の習慣を尊重して、その方らしいスタイルで着こなすことのお手伝いやヘアスタイルを整えている。男性は、毎朝ひげそりの声かけを行ない、整えてもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、利用者様の好みを把握した家庭的な料理を提供している。食事作りには参加できないが、できる方は野菜の下ごしらえや後片づけを一緒に行っている。	献立は管理栄養士の献立を参考に調理師が作っている。好きな物・食べたいものを把握して調理している。行事食のおせちや季節の料理・花見弁当・おはぎづくり・梅干し作り等、楽しんでいる。野菜の差し入れもある。利用者は茶碗洗いや台拭き・盆拭き・買い物等、職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態に合わせて、形状を変え提供し、好みにも合っているか評価することで残食なく食べて頂いている。食事制限や好き嫌いには個別に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その方の状態に応じた支援のもとに、口腔清掃を実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	その方の状態に合った方法を検討し、安全にポータブルトイレやトイレの使用が行えるよう支援している。排泄意を訴えない方は排泄パターンを職員が把握し、声かけや誘導でトイレでの排泄を促している。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し日中はトイレでの排泄を支援している。夜間は状態に応じてポータブルトイレ使用やリハビリパンツ・オムツ使用など、個々に対応している。時間や表情等での声かけ誘導やパットの種類を検討し費用削減につながっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が及ぼす認知症の方の不安や混乱を理解し、水分、食物繊維、ヨーグルトなどを日常的に多く摂れるようにしている。室内運動では体操、室外では散歩や外出を取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	利用者との話し合いにより、基本的な設定はあるが、その日の状態や希望に配慮した柔軟な対応が行える。また、個人の入浴ペースに合わせて気持ち良く入浴ができるよう支援している。	入浴は基本的に週3回、午前中に実施、状況に応じて随時対応可能となっている。入浴剤や弱酸性石鹼の使用、同性介助、二人介助の対応など、気持ちよく安全に入浴を楽しめるよう支援している。拒否のある利用者には声かけの工夫やタイミング、必要に応じて清拭や足浴などを実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングに集い活動するが、個人の希望に沿い、入床・離床を支援している。一人ひとりの生活リズムや習慣は職員が良く把握している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時には必ず職員への周知を図り、予測される副作用の注意点について共有し、様子観察が徹底されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>趣味や特技を活かせる環境を整え、好きな時に取り組めるようにしている。嗜好品等は、一緒に買い物に出掛け購入している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>気候の良い日には散歩やドライブに出掛けたり、催しものや祭りに参加者を募り出掛けるなど外出が気分転換となるよう支援している。</p>	<p>日常的には、天候や体調に合わせて毎日、散歩や外気浴をしている。年間計画をたて、ドライブで平川動物公園やフラワーパーク・山川港まつり・そうめん流し等へ行き楽しんでいる。普段行けないような場所にも出かけている。家族の協力を得ながら外出や外泊などの支援もしている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人の希望や力に応じたお金の所持を家族と話し合いのもと行っている。外出時や買い物時には、ご本人が自由に使えるよう支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>個人で携帯電話を持つ方もあり、充電をお手伝いしたり、リビングには公衆電話が設置され希望があればいつでも電話を掛けることをお手伝いしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節の花を置いたり、共同作業で取り組んだ壁飾りで生活の中に季節感を取り入れている。台所からは、調理の音やにおいが感じられる。	共用空間は居室に近く、楕円形のテーブルやテレビ・ソファが置かれゆっくりくつろげるスペースである。室温・湿度管理が良く、加湿器も置かれている。壁に利用者と合作の季節感のある作品が飾ってある。手作りの神社や賽銭箱があり、ユニークで楽しい雰囲気づくりが見られる。居心地よく過ごせるように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の広さは限られているが、利用しやすく落ち着ける位置を考えてソファを設置している。屋外のベンチは日光浴や外気浴に人気である。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、使い慣れた家具や品物をお持ちいただくようお願いをしている。壁には、家族の写真や行事の思い出写真が目につく場所に飾られ、趣味の絵や手紙を書く方は机や椅子を設置する等している。	居室にはベッドやエアコン・クローゼット・洗面台が設置してある。家から持ち込まれたテレビ・家族写真・仏壇・手芸作品が置かれている。趣味の手芸や手紙等が書けるように机や椅子を持ち込んだ利用者もいて、個性のある部屋づくりで、日々楽しく暮らせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能を把握した手すりの設置や動線の確保、居室内では好きなことが自由に安全にできる家具の配置など現状に合った環境整備を必要時に検討している。		

V アウトカム項目 (1F)

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない